



求む！ 向上心

「生徒たちに身につけさせたいもの」これを問われたら、私は一番に『**向上心**』を挙げます。（この話をここに載せるのは、「もっこ殻を破って挑戦を！」と願う状況があるからです…）

「敬の心」や「坂の上の雲」と昔の人が言ったあくなき探究心や冒険心、やむにやまれぬ大和魂を表に出して、ふり返ったときに「よくやった」と湧き出る達成感を感じられる二期期にするために、勇気を出して「一歩」を踏み出すことを生徒たちには期待しています。以下は「自分を励ます言葉」として生徒自身が選んだものです（抜粋）。

「あきらめたら、そこで試合終了ですよ」
 「一番いけないのは、自分なんかだめだと思いつくこと」
 「心を燃やせ」
 「本気の失敗には価値がある」

三月十一日：卒業式

二月十八日～十九日：一般入試

一月二十八日：特別入試

十二月二十四日：終業式

十二月十日：生徒会役員改選

十二月五日：人権集会

十一月二十六日～二十八日：期末テスト

十一月七日～十五日：三者面談（三年生）

十一月十二日～十四日：修学旅行

十月二十五日：「ふるさと学」研究発表会

十月十七日～十八日：中間テスト（一・二年生）

十月十～十一日：実力テスト（三年生）

九月十日～十一日：職場体験学習（二年生）

九月二日：始業式

一学期に成長するぞ！
 一年間で一番長いこの学期には、様々な行事や分岐点となる場面があります。それぞれが人生を左右する！と言っても過言ではありません。
 生徒のみんな、悔いのない選択を！

毎日を通していこう！

「勉強する」「体を鍛える」
 「家族とたくさん話す」
 「自分の未来を考える」
 その実現のために必要なことを考える。そのために栄養と睡眠をしっかりとる（だからメタボの時間は「一時間以内」）。そんな元気はつらつな毎日を通していこう！



《コラム 港町ブルース》

「自信」

この夏、訳あって太平洋の真ん中にある島に行ってきました。世界中から観光客が集まるその島の「見どころ」や「人気の食べ物」を試して思ったことは…。

南島原もけっこうイケる！（マジです）

ワイキキに引けを取らないビーチ（白浜、前浜、野田浜）、ダイヤモンドヘッドよりも勇壮な普賢岳、イルカならこっちもいるゾ！ お店の数はもちろん違っけれど、売ってあるものはそんなに変わらない（娘の夫は「ファミキチ、ツナマヨおにぎり、サイコー」と言っていました）。おスヌメのチキンはおいしかったけど白石の唐揚げはもって美味しい！走る車は半数が日本車だし（軽トラもいた）、日本企業の「口」もたくさん見た。違いはホームレスの数の多さ、これにはびっくり…。つまるところ、あっちにあってこっちにないのは「自信」かな…。

そう思った娘婿の家族、そしてかわいい孫との面会旅でした。



現地の人たちが感謝を伝えるサイン「シャカー！」

《 主な行事予定 》

〈令和6年度 9月〉

- 10日（火） 職場体験学習（2年生）～11日
- 11日（水） 校外学習（3年生）
- 12日（木） 育友会講演会（講師：太瑞知見氏）
- 19日（木） ふるさと学プレゼン発表会（練習）～20日
- 20日（金） 学習コンテスト（数学）
- 27日（金） 英語検定

〈令和6年度 10月〉

- 2日（水） 市中総体駅伝大会
- 8日（火） 史跡巡り（1年生）
- 10日（木） 実力テスト（3年生）～11日
- 17日（木） 中間テスト（1・2年生）～18日
- 25日（金） 「ふるさと学」研究発表会

《心に響いた言葉》 「試合じゃ甘い球は帰って来んぞ！練習の時から厳しくせんばさ。」

夏休みの部活動、休憩中のテニス部員同士の会話から



シリーズ「学校教育の充実」

第一期南島原市教育振興基本計画から
〈第六回〉

ふるさと学習

学習指導要領（学校教育の手引書）では、このふるさと学習が重要視されています。世界中の「日本」、日本の中の「ふるさと」、「口之津」、南島原は、私たちにあって唯一無二のかけがえない大切な心の拠り所です。そのために本市の計画でも、次のように示されています。

各学校では、社会科や総合的な学習の時間などに、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産（原城跡）を含む、郷土の自然や文化、歴史などを学ぶことにより、ふるさとを心に刻み、将来何らかの形でふるさとに貢献しようとする人材を育成する「ふるさと学習」を計画的に実施します。

要点は、ふるさとを「学ぶ」を重ねて「生かす」、そして、将来の期待として「貢献する」へと変わっていくという流れです。

今、私たちのふるさと「南島原市」は、人口減少という課題とともに、もう一つ大きな課題があるように思えてなりません。それは、自分のふるさとに対する自信の無さです。

先日、テレビで放映された番組で、南島原を自転車でも周りながら、自然を楽しみ、景観に感動し、人情に触れ、そつめんや唐揚げ、スイーツを堪能した芸人さんが次のように叫びました。

「南島原、隠してたなー！」

このまちの魅力や強みを再発見して（深く心に刻んで）、誇りを持つ心を育てるのが「ふるさと学習」だと思っています。

〈そこで、中学校（本校）では〉

本校では「総合的な学習の時間」はもとより、いろいろな場面（いろいろな形）で「ふるさと学習」を展開しています。

○総合的な学習の時間で

・各学年別にテーマを設けて町内や市内の史跡、資料館などを見学する。

○教科授業の中で

・書写（国語）のお題の文字や英語でのスピーチをふるさとに関連づけたものにして、数学でふるさとの場面を使って計算問題を設定したりする。

○個人研究を通して

・年間を通じた個人研究活動のテーマを「ふるさとの課題」と「自分の未来」に関連したものとして、探究活動をする。最後には研究発表を行う。

これらの他に、生徒会による地域貢献活動や「白浜海水浴場の清掃作業」など、いろいろなことに取り組んでいます。このような経験と学びを通して、ふるさとを誇りに思い、ふるさとに貢献する気概を持って欲しいと願っています。

「ふるさと学」研究発表会開催！

来る、10月25日（金）口之津小学校を会場にして、口之津小学校の児童や口加高校の生徒たちと研究発表会を開催します。

詳しくは、ホームページに案内を載せましたので、どうぞ、御覧ください。



ふるさとの文化・歴史・人物 — 口之津中教育の視点から

「島原半島大地震」

大正十二年十二月七日、島原半島南西部を震源としてマグネチュード六・五と六・九の地震が発生し、津波も押し寄せて大きな被害が起きました。（この慰霊碑と伝えられる石碑が千々石海岸にあります。）地震は連動することがあると言われますが、この九ヶ月後に発生したのがあの「関東大震災」です。南海トラフ地震の危険性が報じられていますが、日本には、他にも危険な断層が

二〇〇以上あるとされ、「いつ大地震がおきても不思議ではない」と言われています。

東日本大震災の被災地を巡り、現地の人たちのお話から感じたのは「人と人のつながりが大切」ということでした。このことを踏まえて危機に強い生徒を育てたいと思います。



熱中症や暴風雨への対策について

暑さはまだまだ続くと予想されています。久しぶりの終日学校での生活ですので、水分を多めに（大きめの水筒を）持たせてください。

また、台風や線状降水帯の発生も心配です。ホームページに各種のマニュアルを載せていますので、御確認ください。

